

(法第 28 条第 1 項関係)

平成 29 年度事業報告書  
(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日)

特定非営利活動法人 i さいと

1、事業の成果

平成 29 年度事業を総括すると「次に繋げる（繋がる）」躍進の 1 年であった。

昨年度は i さいとの中核事業である西都原考古博物館受託及び関係事業（レーダー探査事業を含む）とまちづくり事業の 2 本立ての事業を行った。

29 年度は西都原考古博物館の運営支援事務局としてボランティアの支援や団体予約の受け付けなどの従来事業の他に、ミュージアムショップ（MS）での様々なワークショップの開催や季節ごとに MS のディスプレイを変えるなど積極的な活動を行った 1 年であった。ボランティアの活動歴が長くなり、物故者が出てくるなど高齢化が目立ってきたこと、博物館ボランティアの基本を確認する為、館の設立責任者であった北郷氏の講座（一泊二日の館外研修）を実施した。また、3・11 のイベントでは防災士ネットワーク西都支部との協働を行い、西都原連絡会では西都市の地域づくり協議会と連携するなど、西都市内で活動する団体との連携は今後の活動に大きく影響すると考えている。新たな試みとして県内の空手団体と連携して「西都原古墳群 親子ふれあい武道・文化交流会」を企画し、130 名の参加を得、考古博物館に無縁だった人たちに広く周知し来館を促す試みとして大きな成果を上げることが出来た。今後の考古博物館を拠点にした活動を推進する上で貴重な足がかりとなった。

まちづくり事業としては平成 26 年度から準備を進めていた銀鏡地域の活性化を観光事業とリンクさせる試み「銀鏡修験文化復活プロジェクト」の地域住民を巻き込んだ「滝行」は、参加者が着実に増加し今後の展開に期待できるようになった。

また「日本考古学協会 2017 年度宮崎大会」事務局と「宮崎発 Live Library 図書館フォーラム 2017」事務局運営を行った。両事業とも直接収益にはつながらないが直接主催者から依頼された事業で、文化事業・まちづくり活動を行う N P O 法人としての認知度や実績を高く評価された結果として受け止めたい。

活動の詳細は個別報告に譲るが、実施した事業は高い評価を得、法人の今後の活動に繋がる大きな一步を刻んだと考えている。

代表理事 井上 優

2、事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 市民活動の推進に関する広報・啓発事業

ア) 日本考古学協会 2017 年度宮崎大会事務局

イ) 宮崎発 Live Library 図書館フォーラム 2017 事務局

ウ) ホームページ・SNS

② 公共施設の等の管理・運営に関する協力・委託事業

ア) 宮崎県立西都原考古博物館運営支援業務委託事業

イ) 豊後大野市内古墳地中レーダー探査業務

③ その他目的を達成するために必要な事業

ア) 西都原考古博物館ミュージアムショップ運営事業

イ) 銀鏡 滝行プロジェクト

## ① 市民活動の推進に関する調査・研究・コーディネート事業

### ア) 日本考古学協会 2017 年度宮崎大会事務局

#### ◆事業期間

期間：平成 29 年 8 月～29 年 10 月

#### ◆事業内容

事前問い合わせ対応・当日受付・図書交換会業者事前受付 リスト表作成・搬入の手配

#### (1) 日本考古学協会 2017 年度宮崎大会 講演会・研究発表会

・日 時 平成 29 年 10 月 21 日（土曜日）13:30 ～ 10 月 22 日日曜日（15:30）

・会 場 宮崎公立大学 講堂 研究講義棟 1 階 102.103 大講義室

・参加者 120名

#### 公開講演会

##### 「災害考古学の方法と展開」

講演者：能登 健氏 元群馬県埋蔵文化財調査事業団・元群馬大学講師

##### 「韓国で発券された横穴墓・地下式横穴墓と九州」

講演者：柳沢一男氏 宮崎大学名誉教授

#### 研究発表

##### 分科会 I

##### 「火山灰考古学の新展開—火山噴火罹災遺跡からの視点—」

##### 分科会 II

##### 「古墳時代中・後期における横穴系埋葬主体の多様性・地域性と階層性」

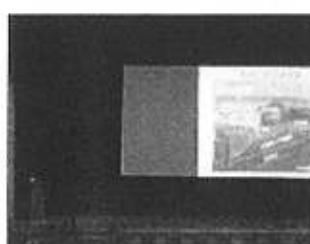
##### 分科会 III

##### 「九州南部における律令期社会の諸相」

#### ◆事業 風景



受付風景



公開講演会



販売；研究発表資料

## イ) 宮崎発 Live Library 図書館フォーラム 2017 “まち”と図書館業務事業

### ◆事業期間

期間：平成 29 年 10 月～平成 29 年 12 月

### ◆事業目的

地域の情報拠点としての図書館の意義、及びこれからの図書館の在り方について、“まち”と文化振興の観点から、県民とともに考える場を設ける。

### ◆事業内容

講師インタビューアとの連絡調整及び謝金・旅費の支払い、宿泊手配・宿泊費支払い、昼食の提供を含む公演開催に必要な業務。

チラシを作成し、案内先へ送付するとともに、県民へ広く効率的・効果的な募集を行う。  
開催当日、会場設営、受付、資料配布、会場整理、駐車場の整理などの運営を行う。

### 講演会「宮崎発 Live Library 図書館フォーラム 2017 “まち”と図書館」

- ・日 時 平成 29 年 11 月 26 日日曜日 10:30～16:00
- ・会 場 県立図書館 2 階研修ホール
- ・参加者 107名（関係者含まず）

#### 第一部「“まち”と本屋」

講演者：大井 実氏 ㈲ブックスキューブリック代表取締役  
質問者：矢野亜希子氏 えびの市文化センター館長

#### 第二部「あなたは次代に何を継ぎたいか—まちの記憶をつなぐー」

講演者：森田秀之氏 (株) マナビノネタ代表取締役  
質問者：村岡浩司氏 ㈲一平代表取締役

#### 第三部「ライブラリアン飛び出す」

講演者：是住 久美子 京都府立図書館情報サービス課長  
質問者：井上康志氏 (一社) コト・デザイン研究所代表理事

#### まとめ

登壇者：・大井実氏・矢野亜希子氏・森田秀之氏・村岡浩司氏・是住久美子氏  
進行： 井上 優 · 井上康志氏

## ◆事業 風景



### ウ) ホームページ・SNS

ホームページ SNS を活用した案内・告知 <http://www.isaito.net/>

博物館運営支援事業全般はもちろん、インスタグラムによるミュージアムショップの情報や24時間対応で西都市銀鏡での「滝行プロジェクト」申し込み受付など継続的に情報発信に力を入れた。今までにない県外の女性からの問い合わせなど広がりを感じる。今年はインスタを見てショップに見えられる女性のお客様も少なくなく、そのお客様の心をくすぐる店舗内の仕掛けを行った。今度はお客様が店を紹介するインスタ効果につながっている。レジではインスタ案内のチラシを配布し当法人のセンターを増やすことに力を入れた。

九州で考古学の本等品揃い豊富な商品をネットで購入できるショップとして発信している。

今年度よりFBグループ「西都原大好き」を立ち上げ西都原古墳群に関する団体をグループ化し団体で西都原関係の発信を始めた。当法人が行う各種イベントや博物館で開かれる展示会や講座や講演会の案内告知・報告まで他団体からも告知してもらうことで幅広く行えた。



## ② 公共施設の等の管理・運営に関する協力・委託事業

### ア) 宮崎県立西都原考古博物館運営支援業務委託事業

#### ◆事業期間

期間：平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

#### ◆事業概要

振り返ると平成 29 年度は、一昨年のような災害こそなかったが、夏の時期のヒマワリの植栽が無いなどあって、夏場の集客に苦労した年であった。しかしながら来館者数については、最終的に 106.6% で終える事ができた。事務局としても少しは貢献できたかと考えているところである。

4 月の企画展 I 「色が語る いにしえの技と心」では、色から見えてくる歴史や技術を紹介。7 月開催の特別展「日向諸県君と葛城氏」は、ここ西都原にも深い関わりをもつ内容だけに非常に興味深い内容であった。11 月の国際交流展「台湾鉄器文化の粹」では、新北市十三行博物館の協力のもと、十三行遺跡とそこから出土した鉄製品や装身具、装飾性の高い土器などを展示し、その高度な文化を紹介した。1 月は企画展 II 「豊と日向」を開催。大分県埋蔵文化財センターとの共同開催ということで、豊（大分県）と日向（南九州）の共通点と相違点を紹介した。

そうした中、運営支援業務を行う当法人としても、来館者の増加とその満足度を高めるため、各種の業務を行ってきた。

まずは、団体予約、ボランティアガイド（以下、ボランティアと称する）のコーディネート。そして、そのボランティアに対する研修・講座の企画と実施。体験館での体験活動で使用する材料等の調達などの業務を行ってきた。ボランティア研修については、館内の各種の研修・講座は言うまでもなく、例年実施している館外研修も 2 回（日帰り、1 泊）実施した。また、昨年から開催しているボランティア交流会をさらに進化させたかたちでの合同勉強会も実施した。これは、ボランティアがガイドをするためのより実践的な内容となるよう学芸員の協力のもと今年度は 3 回実施した。うち 1 回は、体験館編として各種の体験活動を体験してもらうものとした。12 月にはコレクションギャラリー展として「蛇行剣」が取り上げられたことを受けて、ボランティアからの要望で急きょ「ミニ講座 蛇行剣」を実施していただいた。急なお願いにもかかわらず快く講師を務めていただいた学芸員には改めて感謝するところである。今後は、フィールドミュージアムとしてのここ西都原において、博物館のお客さまを古墳群へ。古墳群のお客さまを博物館へと誘導できるよう博物館・古墳群のボランティア相互が連携して活動できるようその支援を行っていきたい。

以上の業務に加えて、運営支援の一環として当法人の特性を活かした様々な事業を博物館において企画実施した。これらは全て考古や歴史にあまり関心のない方々にも、この博物館に足を運んでいただく事を目的として行ったものである。

年度初頭の4月2日には、初の試みとして「第1回 博物館 de マルシェ」を開催した。これは、当法人が運営するミュージアムショップに納品している県内で活動する作家さんたちの協力で、その作品や活動を広く知ってもらう事と、女性を中心としたこれまであまり博物館へ足を運ぶことの少なかった方の来館のきっかけとすることを目的とするものである。この日は、同時開催として宮崎市を中心に活動しているシンガーソングライター永吉愛氏のミニライブも同時開催し、会場を盛り上げていただいた。こちらも当法人のネットワークを活かした企画となっている。

6・7月には一般財団法人みやざき公園協会（以下、公園協会と称する）と共に「西都原の梅を食べよう！」（3回連続）を開催し、西都原古墳群内の梅を収穫から塩漬け、そして紫蘇漬けまで行い、参加者に喜んでいただいた。

7月30日には、恒例となりつつあるミュージアムコンサート「ヒマワリコンサート」を開催。毎回お世話になっている県内で活動されているフルート奏者の外山友紀子氏の協力で、氏の生徒さんたちによる演奏会を実施した。11月4日には、「コスモスコンサート」として、こちらはプロの演奏家の方々3人による演奏会を開催。西都原のコスモスと併せて来場者の皆様にはお楽しみいただけたものと思う。開演前には、学芸リーダーによる同時開催中の展示会についての案内をしていただき、終了後には展示室をご覧になるお客様も多かった。

10月7・8日には、国際交流展の開幕に合わせて「西都原 秋のお茶会」を開催した。これはボランティアが個人的に所属する表千家流茶道宮崎県同友会（以下、同友会と称する）との共催で実施したもので、博物館1階エントランスに特設の茶室を設け、抹茶と和菓子を楽しんでいただいた。2日間で200名を越えるお客様にご来場いただき、運営にあたっては、同友会の皆さんと合わせてボランティア有志の協力もあった。また、実施に当たっては地元の「一心たたみ店」のご協力でたたみもお貸しいただくことができた。

11月4日は、春に続いて「第2回 博物館 de マルシェ」を開催した。2回目の実施ではあったが、まだまだ認知されているというにはほど遠い状況であり、決して満足できる結果ではなかったが、出店作家の方々と今後も継続して開催し、周知を図っていくことを考えているところである。

年がかわって2月4日には、こちらも初めてのスポーツ関連企画として、宮崎県空手道振興会との共催で「西都原古墳群 親子ふれあい武道・文化交流会」を開催した。空手を

学んでいる子供たちに古墳群や遺物、そして勾玉作りなどを体験してもらい、西都原の素晴らしさを知ってもらうことを目的とした。最後には、博物館入口横で子供たちによる演武披露も行い、来館されたお客様も足を止めてご覧になっていた。

同じく2月10・11日の2日間、昨年実施して大好評であった「銅鏡チョコをつくってみよう！」を開催。32名のお客さんに参加していただいた。今回も銅鏡チョコ作りと併せて参加者には展示室で実際に出土した銅鏡を見学していただき、「銅鏡ミニ講座」も行いとても好評をいただいた。こちらもこの博物館の名物企画となるよう今後も引き続き実施するよう考えている。

3月11日には、当法人が東日本大震災の翌年から継続実施している「震災を忘れない！」を行った。今回で7回目を迎えた今年は、「その時、私に何ができるのか？」をテーマに、地元の防災士ネットワーク西都支部、公園協会の協力のもと、AED操作体験や心臓マッサージの体験ワークショップ、避難所で役立つ割り箸を使ったおもちゃ作りなどを行った。準備不足のため、満足できる結果ではなかったが、防災士ネットワーク西都支部の方と新たな繋がりができ、今後も継続した連携企画も考えていきたいと思う。

自主事業であり委託業務ではないが、博物館1階におけるミュージアムショップの運営も当法人の重要な博物館支援業務の一環であると考えている。博物館発行の図録、各種調査報告書、そして考古学をはじめ古代史・歴史関連書籍等の販売とSNS等を活用したその案内により、多くのファンを増やし認知度も高まってきており、「関連書籍の品ぞろえでは県内トップクラス」との評価をいただくようになっている。さらには、来館者層の拡大を目的として出品いただいている作家さんを中心として、販売だけではなくマルシェをはじめとした体験ワークショップなどにも力をいれてきた。これによって、なかなか考古博物館へ足を運ぶ機会の少ない女性や子ども連れなどの客層が来館するきっかけとなるよう企画実施してきた。まだ課題は多いが今後も引き続き実施していきたいと考えている。

またミュージアムショップでは、商品の販売だけでなくショップ内の壁面やシャッターなどを利用した作品展示場所の提供も行っている。プロアマを問わず絵画や写真等の作品を展示して来館したお客様に楽しんでいただいている。ボランティアが趣味で制作した絵画や地元の書家による作品、写真家による写真展などを開催した。中には、わざわざ作品の展示を見るために来館するお客様も増えてきており、鑑賞後に声掛けをすることによって、展示室や体験館へのご案内をすることでそちらへ足を運ぶお客様も多かった。今後は、来館機会の創出および認知度アップのために、より多くの方々の発表の場としていただけるよう情報発信や案内を行っていきたいと考えている。

## イ) 豊後大野市内古墳地中レーダー探査業務

### ◆事業期間

期間：平成 29 年 10 月～平成 30 年 3 月

### ◆事業目的

4 基の古墳（竜ヶ鼻古墳・小坂大塚古墳・道ノ上古墳・立野古墳）の主体部に関する情報を得ることを目的とする

### ◆事業内容

大分県豊後大野市に所在する 4 基の古墳の地中レーダー探査を実施した。豊後大野市における古墳の探査は、平成 28 年度の秋葉鬼塚古墳・重政古墳に引き続き 2 回目であり、今回までに 7 基の古墳の探査を実施したこととなる。竜ヶ鼻古墳・小坂大塚古墳・道ノ上古墳・立野古墳これらの 4 基の古墳は、昨年度実施の秋葉鬼塚古墳・重政古墳とともに、大分県指定遺跡となっており、古墳時代前期から中期にかけて築造されたと考えられているが、これまでに埋葬主体に関する情報がない。

今回の地中レーダー探査は、4 基の古墳（竜ヶ鼻古墳・小坂大塚古墳・道ノ上古墳・立野古墳）の主体部に関する情報を得ることを目的として、2018 年 1 月 27 日・28 日に実施した。その後、地中レーダー探査の解析結果による各古墳の探査結果を示した。



### ③その他の目的を達成するために必要な事業

#### ア) 宮崎県立西都原考古博物館ミュージアムショップ運営事業

- ・博物館 de マルシェ
- ・ミュージアムショップでの新規商品開拓への取組
- ・SNSを活用した各種情報発信の取組
- ・お客様に喜んでいただぐための取組
- ・書籍品揃え充実への取組

#### イ) 銀鏡 滝行プロジェクト

今年度より地域を巻き込む形をとり「山学校」の一つとして銀鏡学園の生徒さん、先生の家族も滝行に参加された。また宮崎大学の根岸教授・森下教授の口コミや広報で学生が積極的に参加。

SNSで発信することで他県よりメールでの問い合わせがあり徐々に認知度が上がってきたようだ。ただ受け入れする側の問題がでてきている。設営等現地の準備をお願いしている「かぐら里食品」職員のゆずの収穫等で人員が確保できない。またお昼の準備をおねがいする「へそめしの里」しか受け入れ先がない。また自然相手で天候に左右されやすいこともあり定期的に行えないのが課題。今後多くの参加者を募っても東米良地域だけでは受け入れが厳しく、隣町の美郷町などを巻き込んで中山間としての取組もあるのではと今後提案していきたい。

#### 29年 滝行実施

実施日					
月	日	時間		お昼・風呂	外部申込み参加者
4月	29日	12:30神事 13:00開始	山開き 滝行	へそめしの里	3名
10月	1日	12:30神事 13:00開始	き 滝行	へそめしの里	9名
2月	12日	10:00集合 10:30開始	山開き 滝行	へそめしの里	4名

平成 29 年 4 月 29 日実施風景



平成 29 年 10 月 1 日 実施風景





平成 29 年 10 月 1 日

宮崎大学根岸ゼミの学生・一般参加者・へそ飯の里ご家族 事務局 (井上撮影)